

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		商店街（代表者）	・節約疲れがみられる。少しファッション性の高い物に移行しそうだ。
		百貨店（売場担当）	・猛暑で夏物の動きが良くなる。
		衣料品専門店（経営者）	・客との話題の中で、景気の話や給料の話が少なくなっている。不満足な状態で生活防衛が定着しているのではないかと。
		衣料品専門店（総括）	・昨年よりボーナスが増額され、今まで抑えられていた分、消費が増えるのではないかと考える。また、直近の売上が上昇傾向にある。
		家電量販店（経営者）	・12月の家電エコポイント終了まではテレビを中心に売上が期待できる。
		家電量販店（店長）	・現時点でエコポイントは12月までとなっており、また地上デジタル放送完全移行まで1年を切ったことにより、更にテレビの買換えが進んでいく。
		旅行代理店（従業員）	・中国からの観光客の流入が大きく貢献する。
	旅行代理店（従業員）	・国内における、コンベンション等のMICE需要を中心とした問い合わせの活発化が、今後海外MICE需要に派生していくことに期待が持てる。	
	美容室（経営者）	・前月、今月と客数の前年比マイナス幅が縮小している。	
	変わらない	商店街（代表者）	・今年も暑い日が続くそう、例年のように外出を控える傾向が予想される。必要最低限のものを購入して、さっさと家に帰るといった行動パターンが多いように思われる。
		一般小売店〔精肉〕（店長）	・売上の増加がみられるが、他店の閉店、ギフト需要の増加などが重なった結果であり、これから先も続くとは限らない。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	・消費マインドの大幅な改善はないように見え、現状のまま推移する。
		百貨店（売場主任）	・顧客格差がますます拡大傾向にあり、需要を拡大できる商材が見つかりづらい傾向に変化が見られない。
		百貨店（営業担当）	・デフレ傾向がまだまだ続き、販売点数が同じであれば全体的な売上は低下する。また、秋物が出始めたが、秋のトレンドファッション商材の供給量が前年を下回っており、総合的には前年実績を超える売上にはならないであろう。
		百貨店（営業担当）	・婦人ファッションに関しては、夏物、初秋物どちらもヒットアイテムらしきものが出ているが、価格に対しては厳しく、安い価格帯のものを求める傾向に変化はないであろう。
		スーパー（店長）	・今月は、ボーナス、中元商戦で伸びているが、今後の景気回復にはつながりにくく変わらない。
		スーパー（総務担当）	・気温が上昇しても客は必要なものしか購入していないため、今後も売上の大きな伸びは期待できない。
		コンビニ（経営者）	・外部要因的に変化が見られるのは、競合店開店1周年の年末くらいまでなく、ここ2～3か月では現在の状況が続く。
		コンビニ（経営者）	・悪くなる要素も良くなる要素も見当たらないのが現在の正直な感想である。
コンビニ（店長）		・今月は前月、前々月と比較し非常によい状況で推移している。客の流れ、客単価からは、徐々に前々年の実績にまで追いつきつつある流れは途切れないと予測する。	
コンビニ（店舗管理）		・10月からのたばこの値上げ前の特需は期待できるものの、全般的に変動する要因が見当たらない。	
衣料品専門店（経営者）	・知恵を絞って客の購買意欲を喚起しているが、なかなか継続しない。		
住関連専門店（店長）	・特別変化する様子はない。変化しそうな与件もあまり感じられない。		
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・中小企業の客の声は、先行き悲観論一色である。		
その他専門店〔医薬品〕（営業担当）	・生活に必要なものの買い控えが顕著にみられないため、極端に悪くなる兆しはない。		
高級レストラン（スタッフ）	・製造業の一部に景気回復の兆しがあり受注につながっているようだが、接待費や交際費など法人利用に大きく依存していただけない、底打ちは見えない。		
スナック（経営者）	・客の会話からは先々についての良い会話が聞かれず、当店もこの状態が継続する。		

	観光型旅館（経営者）	・夏休み以降の予約人数が前年並みか月によってはマイナスになっている。また、引き合いのある団体客の見積料金は安価なところでの競争になっている。
	都市型ホテル（スタッフ）	・予約状況は厳しく、猛暑がどう影響するか不明である。
	タクシー運転手	・今後、全国健康福祉祭「ねんりんピック石川2010」など大きなイベントを控えており人出が予想される。
	タクシー運転手	・相変わらず、夜は電車やバスが動いているうちに帰宅する人が多い。
	通信会社（職員）	・株式市場や円相場の不安定要因から、夏場の成績が良かった分の反動で秋以降やや落ち着くものと思われる。
	通信会社（役員）	・9月よりデジタルテレビサービスの廉価版を含めた新たなコースの取扱を予定しており、新たな需要層の開拓による契約者の獲得増を期待している。
	通信会社（営業担当）	・新商品が出るまでの間は現状維持になる。
	住宅販売会社（経営者）	・受注見込工事高より判断して現状と変化がない。
	住宅販売会社（従業員）	・新築物件は低価格化が避けられず、今後の受注予想はうまくいって横ばいであろう。リフォーム物件はエコポイントもあり、秋までは順調に推移する。
	住宅販売会社（従業員）	・住宅エコポイント、金利優遇などの措置期間が残っており、現在の客の動きはまだ数か月続くと思われる。
	住宅販売会社（従業員）	・消費者の購買意欲がまだまだ安定していない。優遇税制などの追い風で顧客は動いているが、この勢いがどこまで継続出来るか不透明である。
やや悪くなる	一般小売店〔事務用品〕（営業担当）	・客の様子など2～3か月先の見込みを確認すると、いい話が聞こえてこない。
	スーパー（店長）	・今後良くなる材料が見当たらない。また、客は買物回数を減らし、より安くは当然、価格以外の要素、ポイントやプレゼントなど少しでもメリットのある買い方をしている。
	乗用車販売店（経営者）	・新車購入補助金などの施策で押し上げた販促策なので、一巡と期限切れで冷えてくる。
	乗用車販売店（経営者）	・これからは、政府の新車購入補助金などが利用できなくなり、受注は厳しくなると予測される。
	乗用車販売店（経理担当）	・現在でも若干受注ベースが落ちてきているので、新車購入補助金制度廃止となる10月以降は徐々に厳しさが増してくるものと感じている。
	自動車備品販売店（従業員）	・エコカー減税や新車購入補助金の終了に伴い、新規の需要低下が予想される。
	一般レストラン（スタッフ）	・値下げに踏み切る牛丼業界の影響がある。また今夏は2007年並みの猛暑になると予測が出ており、暑すぎると家から出なくなるか、ショッピングセンターなど冷房の効いた集客施設に人が集まる傾向になるなど、外食産業業界では厳しい夏になる。この反動が秋口の集客につなげれば良いが、葉物の野菜が品薄で値上がりすることも予想される。
	観光型旅館（スタッフ）	・7月は宿泊人員は前年同月比96%、8月の予約状況は同99%、9月は同98%、10月は同83%、11月は同76%と6月までの予約の伸びが感じられない。
	通信会社（営業担当）	・携帯電話市場ではスマートフォンの発売で加熱気味だが、総販売数で見ると増加がなく、今後需要の伸びがあまり期待できない。
	競輪場（職員）	・今年度の全体的な販売量が前年度同時期比15%減となっており、上向きになる傾向が見られない。
	住宅販売会社（従業員）	・販売数には変化がないと思うが、金額（単価）が下がると考えられる。
悪くなる	テーマパーク（職員）	・団体の先行予約は、前年同月と比較しても、まだ回復基調にはなっていない。あわせて、ここ数か月の傾向であるが、客の消費単価が急激に落ち込み、まだまだ悪化する見通しである。
企業動向関連	良くなる	-
	やや良くなる	-
	一般機械器具製造業（総務担当）	・引き合いは増えているが、当社の主力である欧米からの受注が円高の影響でスムーズに立ち上がっていない。
	電気機械器具製造業（経理担当）	・2～3か月先という短期間であれば、景気が上昇する余地はまだ十分にあるが、年末にかけては、このままの景気が継続するかどうかは疑問である。
	通信業（営業担当）	・全体的に通信設備の投資が進んできているようだ。
	金融業（融資担当）	・製造業などの受注の回復が継続していくようであれば、やや上向き兆しがみえてくる。

	不動産業（経営者）	・不動産取引について個人・法人とも問い合わせ件数が増加しており、2～3か月先には期待できる。	
	税理士（所長）	・取引先の中では、アパレル関連、電気製品関連は猛暑のため忙しく、この傾向は続くと思われる。また、輸出関連やシルバー市場関連では動きが好調であり、当面は手堅く推移するのではと思われる。	
変わらない	繊維工業（経営者）	・円高・ユーロ安の悪影響が輸出面で懸念され、欧米向けでは先行き不安の材料になっている。反面、中国向けの拡大に期待している。国内では消費回復の足取りが重く、大きな期待ができない。	
	繊維工業（経営者）	・非衣料については先行き期待できるものの、衣料については10月以降受注が読めない。	
	化学工業（総務担当）	・取引先の状況から今後の受注状況はあまり変わらない予定である。	
	プラスチック製品製造業（企画担当）	・住宅以外の分野では以前と比較し動きがみられるが、8割以上を占める住宅建材向けでは、相変わらず変化がなく、3か月先に住宅市場が好転するとはとても思えない。	
	金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の受注の入り具合は、現状と変わらない。	
	一般機械器具製造業（経理担当）	・ここにきて鋼材価格が大幅に上昇しているが、製品価格に転嫁しにくい環境がある。収益圧迫要因が多いため見通しがやや悪い。	
	精密機械器具製造業（経営者）	・一部の商品では今後上積み計画になっている一方、円高状況の中、特に海外向け商品では厳しい状況も想定される。	
	輸送業（配車担当）	・今後急激に景気が上向くとは思われない。取引先の営業担当では、コスト意識が前面出てきて、運賃なども低下傾向になっていくであろう。	
	金融業（融資担当）	・景気が上昇局面にないと考えられるが、製造業の生産活動が比較的しっかりしており、これ以上の下落懸念も薄い。ただし、小売業などでは前年割れが続いており、注視が必要である。	
	新聞販売店〔広告〕（従業員）	・前年8月は衆議院議員選挙特需があり伸びたが、今年は土曜日が一日多かった7月のプラス分が8月でマイナスになる。	
	司法書士	・住宅ローン以外の融資案件が全く無い。	
やや悪くなる	食料品製造業（企画担当）	・主原料価格の上昇が顕在化しており、以前からの在庫との総平均単価が徐々に上がってくる傾向である。販売単価は依然として低価格で推移しており、かつ製品価格の値上げができる環境下でもなく、原料高の製品安がより色濃く現れてくるものと予測している。	
	建設業（経営者）	・国の今年度公共事業予算の前年度比18.3%削減の影響で、どの発注官庁にも予算がなく、盆を過ぎてから発注される工事がさっぱり見えない。12月決算の当社にとって、年次決算に与える影響は深刻である。	
悪くなる	建設業（総務担当）	・建設投資は依然低水準が続くと思われる。し烈な受注価格競争が今後もさらに厳しくなると予想され、ますます状況は悪くなる。	
雇用関連	良くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・求人する企業が多くなっている。
	やや良くなる	-	-
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・一般企業の雇用形態で、正社員ではなく、一時的な契約社員、パート契約、期間社員の採用が見られる。派遣契約には結びつかない。派遣契約については企業もやや慎重な姿勢である。
		人材派遣会社（社員）	・製造業での求人が一時的との話もあり、一方、IT業界やサービス業などでは回復の兆しが見えない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・求人数が伸びる要素が見当たらない。
		職業安定所（職員）	・雇用調整助成金申請のための事業所からの休業等実施計画の提出件数に減少の気配がない。
		職業安定所（職員）	・新規求人は増加しているものの、正社員求人の増加幅は小さく、求職者の職業選択の幅が広がっていない。依然として雇用情勢は厳しい。
		民間職業紹介機関（経営者）	・企業は人員に余剰感があり、相当多忙にならない限り、雇用増加につながらない。
	学校〔大学〕（就職担当）	・求人数の動きに回復が見られるが、今後の求人に反映されるかわからない状況である。	
	やや悪くなる	-	-
悪くなる	-	-	